

がんの発症

遺伝因子

加齢

環境因子

腫瘍細胞

×

免疫機能低下

タバコ

化学物質

栄養不良

睡眠不足

アルコール

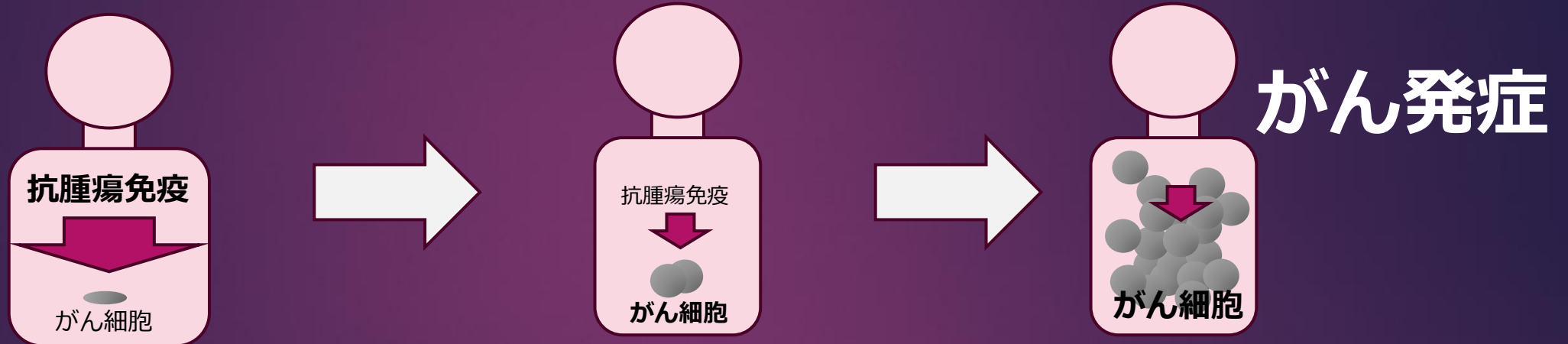
ウイルス

過労

放射線

メンタルストレス

がんの発症リスク評価マーカー ImmGenk



がん発症に先行する免疫機能低下を検出

がんの一次予防

がんの発症リスク評価マーカー ImmGenk

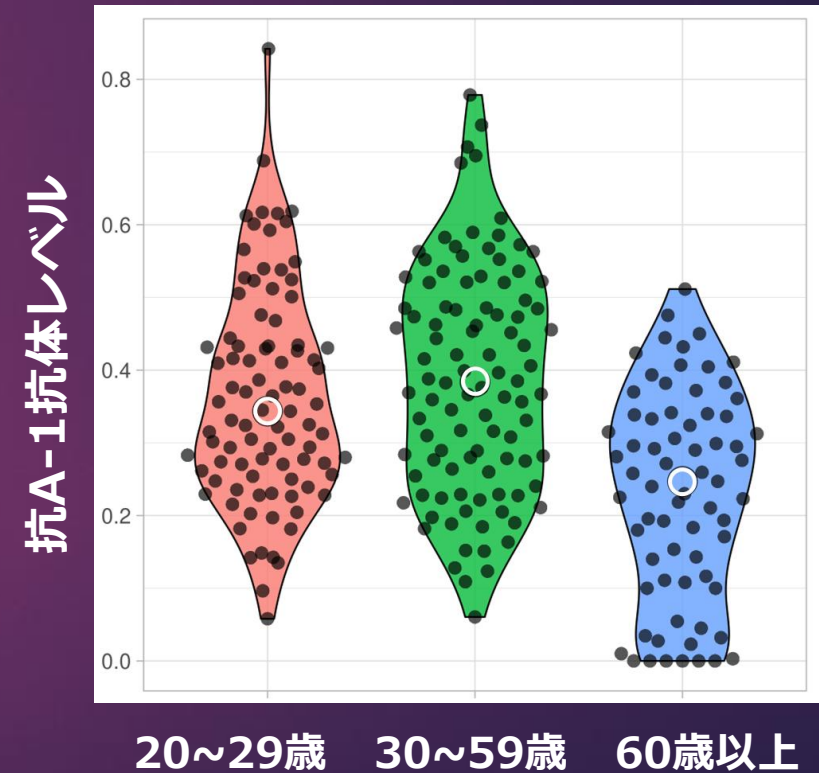
潜伏感染ウイルス関連タンパク

▶ **抗A-1抗体**

あるウイルスに着目しました。
このウイルスはほとんどすべてのヒトに潜伏感染し、
ウイルス関連タンパクが免疫系を持続的に刺激します。

本マーカーはこのウイルス関連タンパクA-1（非公表）に
対する免疫系の反応—抗体の産生—を測定して
免疫の働き具合を評価するものです。

免疫系がうまく働かないと体内にあるがん細胞が増殖し
がんの発症リスクが高くなります。

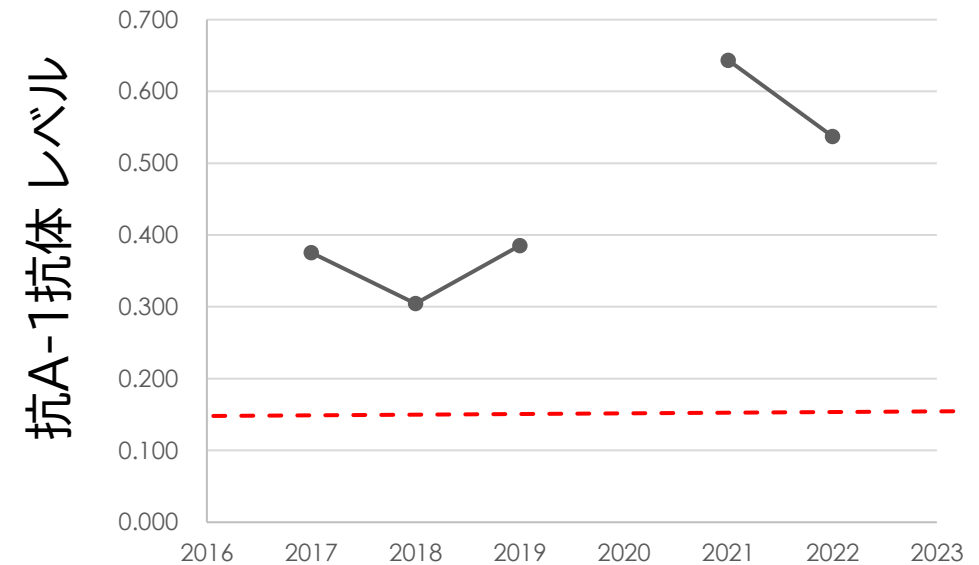


がん発症前に A-1 に対する抗体レベルが低下

胃がん 45歳



非発症者 55歳



大腸がん・悪性黒色腫・子宮体がん等でも実施例あり

がんの発症リスク評価マーカー ImmGenk

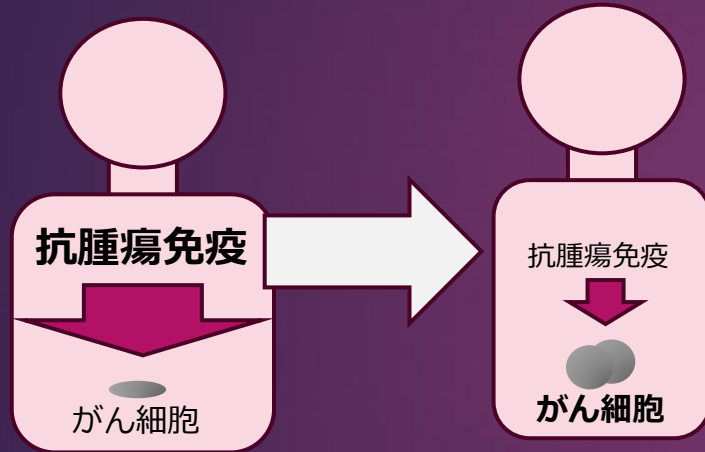


用途：健診等におけるがん発症リスクの評価

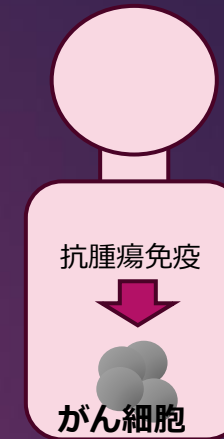
- ・ 低侵襲
- ・ 採血量：＜1mL
- ・ ローコスト

がんの発症リスク評価マーカー

ImmGenk

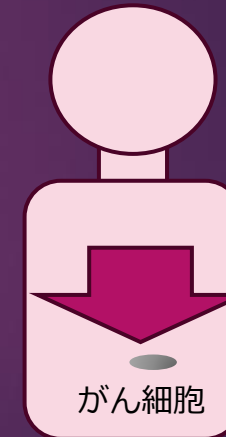


免疫機能低下を検出



早期発見→治療成績向上

免疫強化



がんの一次予防

大阪大学大学院医学系研究科・生体病態情報科学講座

尾路 祐介

oji@sahs.med.osaka-u.ac.jp